

公益社団法人
中部日本書道会

濃飛

第10号 記念号

濃飛支部会報
第10号

●発行●

令和3年2月

濃飛支部広報部

電話 0573-28-1437

FAX 0573-28-1799

●印刷●

(株)協和印刷工業

題字 (故)永治秋聲

濃飛支部会報第10号発行に寄せて

公益社団法人中部日本書道会理事長 伊藤 仙游



濃飛支部の皆様には令和三年の新年をお健やかに迎えるの心よりお慶び申し上げます。

私達は今、コロナ禍により経験のない生活様式を求められておりますが、こんな時こそ芸術・文化の果たす役割が大切であり本会の責務も大変重要になっております。

この度濃飛支部の支部報が第十号発行の運びとなり、心よりお慶び申し上げます。

濃飛支部は、一九八六年設立から本年で三十六年目を迎え、初代支部長永治秋聲先生に始まり中川貴舟支部長の時代に第一号の発刊、今回が第十号の発行となりましたこと、支部役員をはじめ会員皆様の格別なるご尽力の賜物と、衷心より敬意と感謝を申し上げます。昭和の末から平成・令和と続く濃飛

支部活動の 動向から思うこと

濃飛支部長 三野島 凌雲



令和二年は、新型コロナウイルス感染症蔓延のため、本部事業はもとより支部活動においても、ほとんど中止となり、支部発足以来継続の第三十五回支部展が中止という異常事態となりました。

書の魅力の発信や会員の親睦、交流活動を持続していくのに、会員の「三密」防止と会合の自粛など、生命を第一優先にしながら、新しい生活様式の中で、書の魅力の発信の在り方を構築していくことが支部でも求められました。

令和三年は、支部発足三十六年目を迎え、濃飛支部報も第十号の発行の運びとなり、会員各位のご尽力に感謝申し上げます。来る七・八月には第三十五回支部展を高山で開催予定となっております。引き続き会員及び新会員も加



えながら書の魅力発信に努める所存ですが、新型コロナウイルス感染症から一日も早い復興を念じています。

「普通の」日常生活に戻っていない中、会員各々が「書」の原点に立ち返り、書道の隆盛のための礎の強化として、創作において高雅な気品のある精神や情感を率直に表現するなど、新しいステップを持ちながら書の向上に向けて地道に取り組むことが求められています。

書の本質は言うまでもなく、文字の上人間の生命の躍動が真率簡潔に表現されるもので、その作者の精神、感情、境遇が現われます。文字を書くことは、古来より日本文学の動脈のように、日本の歴史の中で絶えることなく続いています。筆で書かれた書には人間の姿が見え、人柄がもろに見えてくる書への関心は途絶えることはないと考えます。この書の魅力(人の心に直接訴える書)の発信が今後さらに重要になってくると思います。

最後になりますが、今年も、会員の皆様には支部活動の推進にご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。

団体署名実施協力中



濃飛支部会報

十号発刊に寄せて

常任顧問 今井 仙道
(第一代支部長)



今井仙道先生は、広報初刊以来顧問として、陰になり日なたとなつて相談にのつてくださつたり、御指導くださったり本当に力強く支えてくださいました。今回原稿をお願いしましたが所用により、ご遠慮されました。今も私達を見守つて戴いています。先生もお体を大切になさつて又の寄稿を楽しみにしています。(文責 中垣幸聲)

顧問 中川 貴舟
(第六代支部長)



平成二十四年第六代支部長を拝命しましたが、歴代の支部長さんのご尽力で、支部も盤石な礎が出来ています。只、支部結成二十六年が過ぎましたが、十年前支部会報がまだ発刊されていませんので、本部の先生はじめ多くの皆様方のお力添えをいただき、記念すべき創刊号の運びとなりました。当初発刊するにあたり続けられるかと、ご心配もいただきましたが、創刊号でお祝辞をいただきました。理事長鬼頭翔雲先生に「この協調性ならば」とのお言葉を賜りました。この言葉のように会員の皆様方の心が、いつでも強い絆で結ばれ、今

回の十号に続きました。年一回の会報でございますが、会員の皆様方のご活動そして地域への貢献等一年を振り返り、明日への活力となる会報であることを、確信いたしております。

創刊号から十号まで、広報部長さんにはリーダーシップを発揮していただき、会員の皆様そして多くの方々のご指導に敬意を表するものでございます。

これからも、会員の皆様方の「和」をもつて限りなく会報が発刊されることを、お念じ致したく存じます。

参与 森 京華

中日書道会濃飛支部の第一回会報が平成二十四年に発刊されました。そして令和に改まり、令和三年に第十号の会報が発行となり、皆様の手許に届く事が出来ました。本日に喜ばしい事です。これも濃飛支部を今まで支えて下さつた役員、又会員の皆様方が人と人の和を大切に心がけ、お互いに親睦を大切にして会の運営に協力して下さつた賜物だと思っております。

最後になりましたが、会報の始まりから今日まで一貫して編集を担当して下さいました広報部長には心から感謝し、又、今後共尚一層、会の運営に御尽力の程よろしくお願い致します。



濃飛支部長を退任しての

お礼と思い出

石原 聲風



令和元年七月の濃飛支部総会において改選があり三期六年務めさせて頂きました支部長を退任致しました。

振り返つてみますと、無我夢中の六年でした。役員・会員の方には多大なるご支援ご協力を戴きました。厚く感謝申し上げます。

在任中の行事を少しだけ思い出せば、支部展は下呂市、恵那市、中津川市の三市の持ち回りです。各地域の会員の方のご協力を得て作品数も増え、特色ある展示会が開催できたかと思えます。

講演・研修会では本部の関根玉振先生・安藤滴水先生をお願いして講演を戴きました。地域の方の講演も心に残ります。温泉寺住職岩浅宏観師・日本画工房篁島田智博先生・源氏物語の魅力をお話頂いた桑田靖之先生など、日頃触れる事の出来ない素晴らしい講演でした。

研修旅行では賀茂真淵記念館・奥の細道結びの地記念館・徳川美術館・澄懷堂美術館・康耀堂美術館など各地へ、研修とは言いましてもお酒も入り楽しく行く事が出来ました。

私事ですが、故永治秋聲先生の門を叩いてより三十数年になります。先生はお酒も強く又教室ではいつもむつつり顔をされて、作品を見て頂くと毎回「こんなものはダメだ」と言われたものでした。今私の生徒の作品を見る時、先生の気持ちに少しだけ触れた気がします。書に対し本当に不器用な私ですが、継続

だけが上達の道と思ひ過す毎日です。最後に、新型コロナウイルスに揺れる昨今ですが、濃飛支部の今後の更なる発展と会員の方のご健勝を祈念申し上げます。

濃飛支部総会

日時 九月二十七日(日)
会場 中津川市「さるとび荘」

今年の支部総会は、新型コロナウイルスに伴い、必要最小限での開催となり、役員十八名、委任状出席二十四名の計四十二名の参加での支部総会となりました。

令和元年度事業報告、収支決算報告、監査報告を受け承認されました。



次に令和二年度の事業計画案、収支予算案が提案され、いずれも承認されました。中日書道展の中止に伴い、支部行事の支部展、講演会等の中止など例年と比べると事業縮小となりますが、日々の書道鍛錬を怠らず邁進することを確認し合いました。

引き続き、岐阜県中津川市(恵那郡田瀬村)出身の明治の楷書の大家丹羽海鶴氏の紹介を支部長の三野島凌雲が行いました。



コロナ禍の中で

書道展が中止になって

増田 春暉

今年コロナ禍で、書道の展覧会も中止となりました。

一時は、正直ホッとしたり気持ちにもなり、ゆつたりと近場のドライブや、庭いじりなどを楽しんだ年でもありません。

また一方で、展覧会は無くては書かなければ…との、気持ちはありながら、しかし気がつくともう晩秋、月日は過ぎて行きました。

思えば、人生の半分以上の長い間、自分はどんな気持ちで、書道が続けてきたのか、何かに取り憑かれた様になっていなかったか、いつも、提出期限が迫って自分らしい字が書けていないのに表装していた…等々、いろいろな想いが巡って来た年ではありました。しかしながら、やはりこのまま書かなくなるのは寂しいと、気付いたことも確かです。「書くこと」と云えばもう一つ、今は、大切な人に自由に会えない分、お互いの慕る想いを、手書き文字が伝えてくれるとわかりました。手書き文字からは、その人の想いや、温かみが直に伝わることに改めて気付きました。

新しい年には、やはり文字を書いて、人と触れ合い、繋がっていきたいと思っているこの頃です。

はなの木書道教室

中垣 幸聲

職退きて後、書道教室を受け継ぎ、そして令和二年教室を閉ず

子ども達と歩んだ書の道、教えた子は

五十名余りになるうか、子どもの成長が楽しみでそれが私の生き甲斐でもあった。

教室は一年生から大学生、学年の違い男女の違いはあっても教室に来ると自然にとけ合い和やかな空気が流れる。書も何年か続ける間に驚く程上達する。一番長い子は小学二年から大学卒業するまで、十五年間に心身共に成長し変わっていくのを見守るのが楽しい。高校卒業を期に巣立っていった子は、成人式の晴着姿を母親と見せに来てくれたり、結婚の報告に相手と一緒に来てくれたり、お菓子を手作りして留守の家に手紙を添えそっと置いて帰ったり等、繋がりは今だに続いている。然しどこかで区切りをつけなければと生徒の中学進学を機に三月三十日お別れパーティーをやって終わった。

淋しい気もするが、二十余年も子どもと共に過ごせた事に感謝したい。

書道の集まり危し!!

今井 瑞華

それは田舎の公民館にも三月頃突然やって来ました。新型コロナウイルス感染防止の為に公民館の使用禁止命令!!私達書道クラブは、この公民館で書道の練習をしつつ、会話も弾み、また休憩時間では、モグモグタイムの楽しい一時が日常でしたが、数ヶ月間それが出来なくなり皆残念がりました。その後、使用も緩和され、いつもの部屋から大会議室に移動して三密を避けソーシャルディスタンスを保ちながら初夏から秋まで続き、少々不便を感じながらの練習が続きました。今やつと元の部屋でウイルス対策をしながら練習をする事が出来るようになり、皆の笑顔が戻ったところです。

これからもこの対策をとりながら続けたいと思っています。

コロナ禍であっても「書は楽し!!」

第二十九回

中日書道会

寿展 出品者

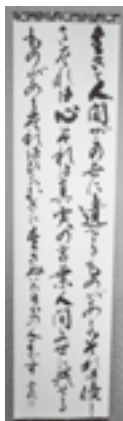
中川 貴舟



斉藤 千秋



中垣 幸聲



第七十二回道風展

奨励賞

磯村 小園
市川 純慧
成瀬 伸芳
高津 華舟
水口 雲峰

恵那市民展入賞者

市展賞 磯村 小園



市展賞を受賞して

磯村 小園



このたび恵那市美術展に於いて、市展賞をいただき、大変嬉しく思っております。これもおとえに皆様のご指導とお励ましのお陰です。

今年コロナ禍の自粛生活で教室もお休みが続く、かといって出掛けたりすることもできずという何も手につかない状態でした。でも夏になりコロナが少し落ちつき始め、書く気力もでてきて、紙に向かうのが楽しく感じられるようになりました。

これからも、この筆を持つ喜びを感じられる世の中になることを念じながら、一層精進したいと思っております。

今後ともご指導よろしくお願致します。

市長賞 篆刻 安藤 朱游



努力賞 篆刻 堀 梅肇



さんぽふち

堀 梅肇

中部日本書道会濃飛支部南端の地とも云える恵那市明智町、町おこし事業で「大正村」と称し観光名所として知られるようになって来ました。又令和二年のNHK大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公、明智光秀の生誕の地の一つとして更に注目される事となりました。

明智光秀について世間一般では謀反人、反逆人として悪者扱いをされ、日の目を見る事なく時代が過ぎて来た事もあつたのか、明智の地には詳細な資料が残されていません。

しかし地元明智町では「光秀公産湯の井戸」と呼ばれている深さ十六メートル程の井戸が土岐明智城、多羅砦の入口に存在し、光秀公・母堂於牧の方の墓所・光秀公学問所・光秀公供養塔寺があります。謀反人と云われ続けた時代に冷遇に耐え、云い伝えによって引き継がれた物は本物であると信じて地元では大切に引き継がれています。

そして大正村の中心地より更に山の奥には毎年春になると公開される梅園があります。

品種によって正月過ぎから一輪二輪と咲き始め、三月初旬には紅の強い「寒紅梅」中旬には白系統実梅「青袖」「白加賀」「梅郷」更にピンク系の「鶯宿」「浮牡丹」等、一重、八重、枝下、斑入り、咲き分け等、山の斜面のような所にある古民家の回りに約五十種、二百五十本程があり、その年の天候にもよりますが、三月末頃まで観ることが出来ます。

この梅は三十数年程前からこの家の道楽息子の私が、田んぼを耕作するより花を愛で、梅が実った時、気が向いたら取

ろうと植え始め、白い花ばかりだと色気が無いと紅い花を加え、更に八重、枝下と毎年増やして今の形になったものです。機会があればぜひお立ち寄りください。

陶町窯業の昔と今

工藤 雅翠

足利時代の頃、武蔵の国久良岐郡の加藤左衛門なる人が、陶村大川に来て與左の窯を開き、窯跡は現在大川地内に東窯、西窯、下窯の三ヶ所にあります。

尾州瀬戸窯より織田信長公の窯の免許を得て、加藤萬右衛門尉基範なる人が、陶村水上に来て田の尻上窯を始めて、猿爪地内の釜洞に同業者三十軒ほどの窯が



磁器製造工場の内部



本郡製品の各種

でき、盛大になり素焼の火鉢等を製造しました。その後何時となく自然に廃滅しました。明治の頃、猿爪村の「曾根庄兵衛」が、陶磁窯の開祖となり、明治四年の窯業制度窯廃止になりました。町は盛大の気運に向い近村隣郡から、陶土、珪石等の原料を発見し、明治八年頃西洋の呉須「コバルト」を輸入して、紺青の色を使い絵柄をつけて洋食器の輸出向けが始まりました。明治二十六年、米商館「エ、エ、ワнтаイン社」と直接取引契約し輸出品製造に至り、今日の盛況になりました。

た。戦後には、窯の燃料が変わり赤松の新から亜炭、重油と変化し、オイルショックで代金が負担になり、又中国から安価品が出まわり、先人が苦労しました。白い素地の磁器食器が、陶の町から今は消え静かな町、窯のエントツの立たない姿に風景が変わりました。

令和三年度事業計画

事業名	予定年月日(曜日)	実施開催場所
支部展	令和3年7月30日(金) 令和3年7月31日(土) 令和3年8月1日(日)	高山市 高山市市民文化会館
支部総会	令和3年8月1日(日)	高山市
講演会	令和3年8月1日(日)	高山市 ひだホテルプラザ
支部交流会	令和3年8月1日(日)	高山市
企画委員会	令和3年4月 令和3年9月	高山市 中津川市
役員会	令和3年7月 令和3年11月 令和4年1月	高山市 中津川市 恵那市
研修会	令和3年11月予定	未定
支部報11号	令和4年2月1日発行	

会員募集

お習字は、一歩一歩登るうちにいつの間にかある高さに達し、野、山、川の美しさも身近に思い、書道を通して喜ぶ事が出来ます。入会をお待ちしています。

会員部より

詳細は事務局まで。(担当) 工藤雅翠
☎〇五七二一六五一一〇二〇

編集後記

中日書道会濃飛支部発足より三十六年が経ち、濃飛支部広報十号が発行出来る運びとなりました。今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大を避けるため、様々な行事を行うことができませんでしたが、家で過ごす長い時間の中で、書に携わっている方は書を楽し個性を磨き、前進するひとときを楽しんで過ごされたかと思えます。反面、スマホ、パソコン生活により毛筆に触れることが少なくなっている現実もあります。少しでも墨による美しい芸術を味わい、感性を磨き、情緒あふれる心の豊かさを育てる方向へと繋いでいければ幸いです。今、この時期、書へのPR発信に心がけていくことが大切ですね。

広報発行にあたり、皆様のご協力有難うございました。
広報委員 市川 純慧

広報の編集に携わって十年がたちました。いや気づいてみたら十号にもなっていたと言った方がいかにも知れませんが、毎号試行錯誤の連続でしたが会員の皆様のお力添えと、連綿から印刷をお願い致しました協和様の根気強く細かい所まで気が付き共に編集に係わって戴いたお陰と感謝致しております。又、初回と十号記念には本部長理事様より励ましのお暖かい寄稿を戴きまして深く感謝申し上げます。

濃飛支部は広範囲な地域から成り立っています。然し、その結束の強さは抜群です。今年ではコロナ禍の中、余り行事も出来ませんでした。それでも会員の皆様の書を愛好する熱い思いが広報を通して伝わって参りました。これからも広報が会員相互の交流と、書文化発展の一助になる事を願っています。広報部長も十年を一区切として次の方にバトンが渡せたらと思います。宜しく申し上げます。
コロナ禍の一日も早い収束を願っています。

広報部長 中垣幸聲